

# 『アロマテラピー学雑誌』投稿の手引き

## 1. 投稿の準備

必ず投稿規程および本投稿の手引きの内容を確認のうえ、執筆する。

## 2. 原稿の書き方

- (a) A4判白色無地の用紙を縦長に用い、片面の右側に十分なマージン（左側には2.5 cm程度）を取って記入する。12ポイントの文字を使い、1行40字、1ページ21行（1ページ840字）で、左余白に行数、右下余白に頁数を記載し、横書きに印字する。
- (b) 原稿は次の順で、ページを改めて作成する。表紙、英文要旨、和文要旨、本文。
- (c) 句読点、カッコ、ハイフンなどは全角1字分を用い、数字および英字は半角文字とする。数字と単位の間は半角空けとする。
- (d) 節の初めは1字分空ける。

## 3. 用語

- (a) 用語は常用漢字、現代かなづかいとし、専門用語は文部省学術用語、JIS用語に、医学用語は日本医学会編「医学用語辞典」に、酵素名はInternational Union of Biochemistry and Molecular Biology (IUBMB) に、化合物名はInternational Union of Pure Applied Chemistry (IUPAC) に原則として従う。
- (b) 薬品名は一般名とし、商品名を記載する際には一般名の後にカッコを付けて記載する。
- (c) 酵素名、化合物名、薬品名を略記号や番号で表す場合は、本文の最初に出てくる箇所で、正式名の後にカッコを付けて略記号または番号を記載する。
- (d) 単位は、原則として国際単位系(SI)を用いる。
- (e) 有意確率を表す「*p*」値はイタリック体で表記する。
- (f) 外國の人名、会社名などは外国つづりで記載することを原則とする。一般に日本語として通用しているものはカタカナで表記する。
- (g) 精油の製造者や実験の機材などの会社名は、「株式会社」などの正式名称を用いる。
- (h) アロマテラピーに関する用語は、アロマテラピー検定公式テキスト1級・2級（公益社団法

人日本アロマ環境協会、2019）に準じる。また、アロマセラピーではなく、アロマテラピーと記載する。

- (i) 植物の学名はイタリック体で表記する。
- (j) マッサージは、トリートメント、または施術という用語に置き換える。ただし、該当する国家資格免許を有した者が行うマッサージのことを指すのであればマッサージという用語を使用してもよい。

## 4. 図、表、写真

- (a) 図、表は1枚ごとにA4判白色の用紙を用いて記載し、合計10枚以内にまとめるようにする。用紙の下右隅に著者名を記入する。
- (b) 写真是A4判白色の用紙に貼り付けて2部提出する。用紙の下右隅に著者名を記入する。
- (c) 図、表、写真的挿入箇所を本文右側余白に指定する。
- (d) 図、表、写真的題名・説明文は和文または英文（和訳を添付）とする。
- (e) 図、写真的番号・題名・説明文はそれぞれの図、写真に記載するとともに、すべての図、写真的題名、説明文をFigure or Photo caption(s)として別紙にまとめて記載する。
- (f) 表は英文の場合はTable 1…、和文の場合は表1…のように記載する。本文中で表を引用する場合も、それぞれの表記に従ってTable 1、表1のように記載する。
- (g) 図は英文の場合はFig. 1…、和文の場合は図1…のように記載する。本文中で図を引用する場合も、それぞれの表記に従ってFig. 1、図1のように記載する。
- (h) 写真是英文の場合はPhoto. 1…、和文の場合は写真1…のように記載する。本文中で写真を引用する場合も、それぞれの表記に従ってPhoto. 1、写真1のように記載する。

## 5. 表紙

次の事項を必ず記入する。

- (a) 論文の種別

原著論文、総説、研究ノート、施術報告、事例報告

(b) 論文題名

論文内容を明確に表現し、なおかつ長すぎず簡潔な題名とする。

大題名がある場合には題名に文献番号を付け、引用文献・注欄に記載する。

(c) 著者名

著者連名の場合は、通信連絡に当たる著者の右肩に\*印を付ける。

(d) 研究の行われた機関の公式名

異なる研究機関に属する著者がいるときは、所属先別に番号を付け、所属機関名を記載する。通信連絡に当たる著者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレスを記載する。

(e) 図表、写真の枚数

挿入する図、表、写真がある場合はそれぞれの枚数を記載する。

## 6. 英文要旨

英文要旨は、その論文において著者が強調したい要点を含め、目的、方法、結果(重要な数値を入れる)を要約する。

(a) 要旨は次の順序で2段送り(ダブルスペース)に印字する。

1) 論文題名

2) 著者名

3) 研究の行われた研究機関名(公式英名)

4) 要旨本文

5) 大題名を特に必要とする場合はその題名

6) キーワード(3~5個)

(b) 要旨本文の長さは、原著論文、総説は600 words以内、研究ノート、施術報告、事例報告は100~200 words程度とする。

## 7. 和文要旨

和文要旨は、その論文の主旨が把握できるように、目的、方法、結果を要約し記述する。

(a) 要旨の長さは、500字以内とする。

(b) キーワード(3~5個)を付ける。

## 8. 本文

本文の項目は、投稿規程3-1. 原著論文、3-2. 総説、3-3. 研究ノート、3-4. 施術報告、3-5. 事例報告に準ずる。

(a) 大見出しが、1. 緒言、2. 実験、…のようにセンタリングし、中見出しが、2.1, 2.2, …、のようにし、小見出しが、2.1.1, 2.1.2、のよ

うにして左から1字分空けて記載する。なお、小見出し以下の区分は(1), (2)…を用いる。

[例]

2. 研究方法(センタリング)

2.1 被験者(左から1字空け)

2.2 測定条件(左から1字空け)

2.2.1 アロマテラピー(左から1字空け)

(1) 試料

(2) 試料の呈示

2.2.2 脳波の測定(左から1字空け)

2.2.3 脳波の分析(左から1字空け)

2.2.4 質問調査表(左から1字空け)

## 9. 引用文献・注

(a) 引用文献および本文中の注記は該当する箇所の右肩に<sup>1)</sup>または<sup>2), 3)</sup>または<sup>4)~6)</sup>のように通し番号を付け、本文の最後にまとめて引用順に記載する。

(b) 同じ著者、同じ雑誌や同じ単行本などの巻・年・ページが異なる文献を引用する場合でもibid., idem., 「本誌」などの用語は用いない。

(c) 著者名は、漢字の場合は姓名を、欧文の場合は姓の後に名の頭文字を記す。複数の場合はすべての著者名を記入する。ただし、著者数が5名以上の場合には、筆頭から4名までを列記し、それ以後は「、他」、「, et al」とする。

(d) 文献名の略し方は、Chemical Abstracts、化学便覧などの略し方に準じる。

(e) 和文誌は当該誌で指定する略記法に従うものとし、特に指定のない場合は略記せずに正式名で記載する。

(f) 雑誌の場合、誌名はイタリック体、巻数はゴシック体とし、年号には( )を付ける。

(g) 単行本の場合、書名には“ ”を付ける。

(h) 著者自身の未印刷(投稿済み)の研究は好ましくないが、引用する場合は、「投稿中」と記し、著者名、投稿論文誌名を付記する。

(i) 電子ジャーナルの場合、著者名: 論文題名、雑誌名、巻(号)、頁、発行年(西暦)、アクセス年月日、URLのように記載する。

(j) Webページの引用は、電子媒体からの削除やURLの変更により参照できなくなる可能性があるため、可能な限り避けること。Webページに代わる刊行物が存在せず、やむなく引用する場合は以下のように記載すること。

発行機関名または著者名、年号、資料題名、

---

アップデート日, <URL>, アクセス日の順に記す。ただし, この中で不明な箇所は省略することができる。

(2000年6月27日 作成)  
(2022年7月14日 最終改定)

[例]

引用文献

- 1) William S. C., Joseph C. S.: Uniformity of olfactory loss in aging, *Ann. NY Acad. Sci.*, **561**, 29–38 (1989).
- 2) 野田信三, 大徳絵里, 岡崎 渉: Rose Water の微生物生育阻害について, アロマテラピー学雑誌, **4**, 26–29 (2004).
- 3) Sawamura M. (Ed.): “Citrus Essential Oils, Flavor and Fragrance”, pp. 5–7, John Wiley & Sons, New Jersey (2010).
- 4) 烏居鎮夫：“香りの謎”, pp. 35–39, フレグランスジャーナル社, 東京 (1994).
- 5) 公益社団法人日本アロマ環境協会 (2014), アロマ研究室, 2014年9月10日, <<http://www.aromakankyo.or.jp/basics/literature/>>, 2014年12月10日アクセス